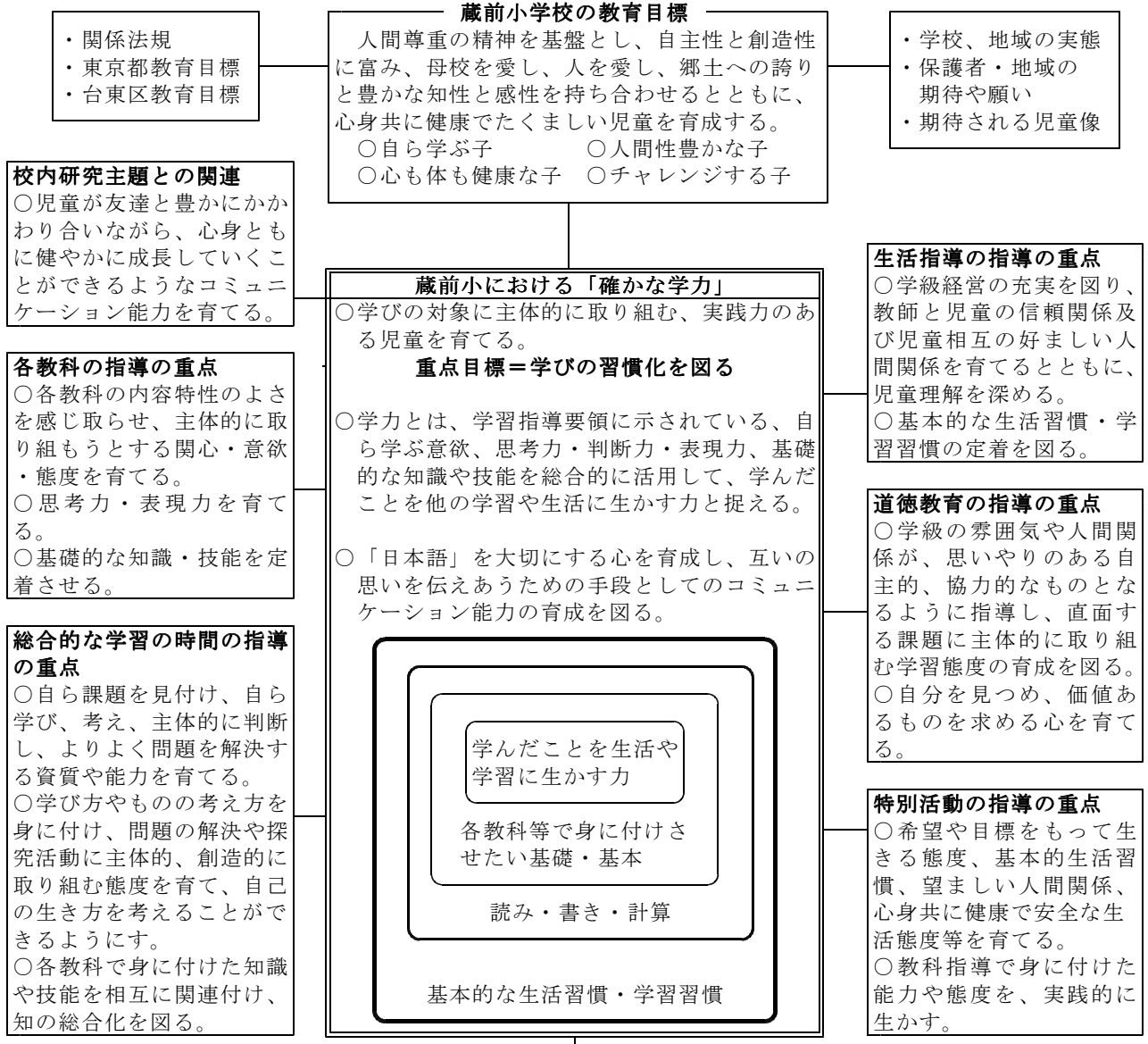


授業改善推進プラン
学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>○TT、少人数の学習形態を効果的に活用し、習熟度別や課題別の指導を取り入れる。</p> <p>○聞き方・話し方の具体的方法を掲示し、全教育活動を通して指導する。</p> <p>○学び方を身に付けさせる単元では多くの時数を配当するよう、重点化を図りながら年間計画を作成する。</p> <p>○体験的な学習、問題解決型の学習等を取り入れ、学習を豊かにする。メディアセンターの活用も進める。</p> <p>○発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>○授業時数を確保し、国語、算数、学級活動に、多くの時数を配当する。</p> <p>○朝の時間の工夫や日記指導等を通して、学習の日常化を図る。</p> <p>○教師の専門性を生かし、教科の指導者を交換して指導に当たる。</p>	<p>○学習プリントやカードを次年度に活用できるよう保管する。また、それを元に、日常的な情報交換や研修を盛んにする。</p> <p>○全学年を見通して学力の充実を目指した計画を立てる。教材研究を徹底して「ねらい」を明確にした授業を行う。</p> <p>○地域教材の開発を進める。</p>	<p>○学習カードを工夫し、児童の興味関心を高めるとともに、自己評価・相互評価をしやすいとする。</p> <p>○授業に対する児童・保護者からの評価を行う。</p> <p>○座席表を活用した指導に即した評価、スモールステップによる児童の努力を認め励ます評価を行い、指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>○公開授業や「はつらつジャーナル」などを通して情報を発信し、保護者・地域の理解と協力を求める。</p> <p>○「オレンジ人材バンク」を活用し、保護者や地域の方の授業への参画を進める。</p> <p>○「学年×10分」を目安に、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>○保護者の授業への参画を進める。</p>